

4. テーマ別セッション

4-3. 第四次産業革命とスマートシティ

2019年6月29日 (12:30-13:20) / イベントホール (3F/B会場)

日本のスマートシティの取組みは、エネルギーをはじめとした「個別分野特化型」の取組みから、官民データ、ICT、AIを活用し、交通、観光、防災、健康・医療、エネルギー・環境等、複数分野にわたる「分野横断型」の取組みへとステージが移っている。スマートシティの分野は国際競争が激しい分野であり、国土交通省としてはまずモデル事業という形で幾つかの取組みを先導していき、全国規模で当たり前のものとして横展開していきたいと考えている。国土交通省として重視したいポイントは大きく3つあり、1つ目は、技術オリエンテッドではなく課題オリエンテッドであるということ、2つ目は、個別最適ではなく全体最適であるということ、3つ目は、公共主体ではなく公民主体であるということである。また、スマートシティを推進する上では、コンソーシアムのような体制をしっかりと組み、チャレンジと検証を繰り返し、前に進めていただきたい。



楠田 幹人 国土交通省都市局
都市計画課 課長



ムラット・ソンメズ WEF
C4IR グローバルネット
ワークセンター長

第4次産業革命が進んでいく中で、ポリシーや行政フレームワークが技術の進展と共に必要となってきている。例えば、クリニックが無く、出産で出血のために女性が亡くなるような国では、3～4年前の時点でドローンによって医療用品の配布を行っていた。にも関わらず、ドローンが飛行機の邪魔になるという政府の意見があったためにスケールアップできなかった事例に見るように、技術は非常に急速に進化しているが、規制の枠組みという点では、まだまだ遅れていることがわかる。また第4次産業革命にとって、データは石油だと言われているが、私は、石油よりもっと重要なもの＝酸素ではないかと思っている。つまり、先を見越した前向きなデータ政策が重要であり、柔軟性のあるフリーフローのデータプロトコルが必要である。そして、次のレイヤーであるAIと機械学習、更には自律走行車やeコマース、個別化医療等の実行のフェーズへと移る。日本には、ぜひ世界の手本になっていただき、スマートシティという領域において、日本のまちと世界のまちで協力をさせていただきたい。

タイのインダストリー4.0への変遷について触れると、タイの経済は元々1.0、農業ベースであり、後に、軽工業から更には重工業へ進んでいった。現在、政府は、創造と革新を重視しており、「デジタルパークタイランド」として官民連携の上での4.0推進を行っている。タイのインダストリー4.0はスマートシティを構成する技術革新であり、スマートファクトリー、低炭素社会、メディカルハブ、食のイノベーション、水の管理等が含まれ、日本においては既に横浜等で実装されている例である。アマタ・スマートシティ開発の枠組みについても横浜市の協力を得ながら検討しており、エネルギーや環境、航空、宇宙、技術革新、スマートコミュニティ、製造、スマートモビリティ、スマートエデュケーションといった所に焦点を当てている。プロジェクトをタイで成功させ、ASEANの他国にも広めていきたい。



レナ・ウン アマタコーポレーション
チーフインベストメントオフィサー